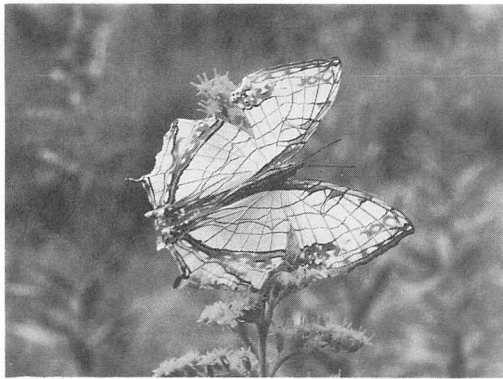


揖保川

- ⑥ 1♀(黄色型)目撃 1995年10月10日 相生市矢野町小河
- ⑦ 1ex.(黄色型)目撃 1995年10月10日 相生市矢野町小河
- ⑧ 1♀(白色型) 1996年6月13日 揖保郡揖保川町馬場



イシガケチョウ♀

相生市矢野町小河 1995. 10. 10 撮影

<参考文献>

- 1) 難波通孝(1994)イシガケチョウの飛翔 自刊・岡山
- 2) 難波通孝(1996)岡山の蝶 山陽新聞社・岡山

兵庫県南西部のウマノスズクサと ジャコウアゲハ 唐土 洋一

ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサは田畑の畦、河川の堤防、墓地等に広く分布していたが、道路拡幅工事、ほ場整備工事、河川の改修工事等でめっきり減少してしまい、ジャコウアゲハも地域によっては稀少種になってしまったようだ。

1. ウマノスズクサ分布の概要
相生市 佐方・青葉台(植栽)

若狭野町入野・若狭野・下土井

- 矢野町下田・上・三濃山・能下・釜出
赤穂市 有年牟礼・木津
龍野市 中垣内
上郡町 野桑・金出地・岩木甲
揖保川町 馬場
新宮町 栗町

上記外の市町にも分布していると思われるが、調査不足で確認していない。

2. ジャコウアゲハの特異性

雌蝶はランダムに卵を産みつける。人間のようには産児制限といったことはしない。もう少し、食草とのバランスを考えて産めばよいのに……。

沢山産まれた卵から幼虫も孵化する。理解出来ないのは、なぜ、食草の茎を喰いきり、枯らしてしまうのか。この習性がなかったら、餓死せずもっと多くの成虫が羽化出来ると思うのは、短絡的な考えか。

3. ジャコウアゲハ受難の例

- 1) 河川の堤防上、田畑の畦に生えているものは、丁度、産卵等が終り若令幼虫時に環境整備のために、刈り取られてしまう。
- 2) 同じく、晩秋に火入れ等で焼き払うこともある。
- 3) 墓地等では、盆前に環境整備のために刈り取られることもある。

上記に示した例のように、通年をとおして観察出来る場所は少なく、食草のみで蝶がいないうところも多々出てきている。

4. 保護の例

ジャコウアゲハは平成元年に"姫路市の蝶"に指定されている。姫路市青山にある「自然観察の森」ではウマノスズクサを植栽し、この蝶を多数繁殖させている。これからは、特定の場所に食餌植物を植え蝶を呼び寄せ、繁殖させることも一つの方法かもしれない。

<参考文献>

久保快也(1987)チョウのはなし I 技報堂出版株式会社・東京

兵庫県赤穂市の蝶類補足 唐土 洋一

兵庫県赤穂市の蝶類としては、岩村 巖(1979)により9科73種が報告されている。その後、新たに追加されたものを以下に記しておく。

アゲハチョウ科 1種

ミヤマカラスアゲハ 1♀ 1981. 9. 30
赤穂市周世 唐土洋一……文献 4)

同上 1♀ 1996. 10 赤穂市有年牟礼 唐土洋一

タテハチョウ科 1種

オオムラサキ - データなし

赤穂市有年横尾 ……文献 5)

同上 越冬幼虫 5頭 確認 1995. 11. 26

赤穂市東有年 唐土洋一

イシガケチョウ 1ex. 目撃 1979. 7. 16

赤穂市坂越(大泊) 橋田和則……文献 7)

同上 1♀ 1994. 10. 16 赤穂市周世 唐土洋一
文献 6)

シジミチョウ科 1種

ムラサキツバメ 1♀ 1981. 9. 5 赤穂市周世
唐土洋一……文献 3)

同上 若齢幼虫2頭確認 1996. 8. 31 赤穂市
周世 唐土洋一

従って、赤穂市より記録された蝶は4種追加され9科77種となった。

<参考文献>

- 1) 岩村 巖(1968)西播の蝶分布資料(5) 赤相の蝶類 兵庫生物5(5):386-397
- 2) 岩村 巖(1979)西播の蝶分布資料(6) 赤穂市の蝶類 ひろおび(4):1-9
- 3) 唐土洋一(1981)西播におけるムラサキツバメ

の新産地 てんとうむし(7):19

- 4) 唐土洋一(1982)西播のミヤマカラスアゲハ採集例 てんとうむし(8):49
- 5) 広畑政巳(1987)兵庫県産蝶類分布資料(4) てんとうむし11-22
- 6) 難波通孝(1994)"1994"イシガケチョウの飛翔 自刊・岡山
- 7) 大貝秀雄(1995)赤相地区の蝶3種の記録 姫路昆虫同好会結成20周年記念-てんとうむし特別号「遊蟲千年」:60-61

ヒメアカタテハの食草について 唐土 洋一

【観察例1】

相生市若狭野町下土井の小河川沿いに生育しているカラムシ葉上より、アカタテハと思われる終令幼虫を2頭採集した。自宅にて、カラムシを与え飼育したところ、ヒメアカタテハが羽化(1♀, 1996. 8. 6)してきた。

<参考>1996. 8. 8 アカタテハ 1♀羽化

従来、ヒメアカタテハの食草としては、ヨモギが広く知られている。今回、見い出された幼虫は、アカタテハに混じっていた。

【観察例2】

1996. 8. 31 相生市若狭野町八洞の県道沿いに生えているヨモギに産卵している雌を見つけた。手づかみしテイッシュでくるみ持って帰り、ヨモギに産卵(9月1日)させた。孵化後カラムシ(相生市佐方産)を与え10頭ばかり飼育したところ、9月24日1♂をかわぎりに次々と羽化していった。

<参考文献>

- 1) 近藤伸一(1984)兵庫県におけるヒメアカタテハについて ひろおび(7):1-14
- 2) 福田晴夫他(1983)原色日本蝶類生態図鑑(II) 保育社・大阪